

麻疹風疹混合（MR）ワクチン接種の考え方

国立感染症研究所 感染症疫学センター

麻疹は発症すると特異的な治療法がない重篤なウイルス感染症で、感染力が極めて強い。しかし、予防接種で予防可能である。第1期、第2期の定期予防接種を徹底するとともに、小学生以上で、検査診断された麻疹の罹患歴がない場合は、必要回数である2回の予防接種の記録を持っていることが重要である。

2018年は海外からの輸入例を発端とした散発例、アウトブレイクが全国各地で相次いでおり、今後の感染拡大が懸念される。4月末～5月初めには大型連休があり、国内外への旅行者も増加することから、麻疹に対する免疫を持たないまま過ごすことは、極めてリスクが高い。

国民一人一人の麻疹に対する免疫を強化し、わが国の麻疹排除状態を維持するために、**次頁に挙げる者には、可能な限り早めの麻疹風疹混合ワクチン（以下、MRワクチン）の接種**が奨められる。なお、下記の注意点には留意すること。

【注意点】

- 接種不相当者*に該当しないことを確認する。
- 麻疹含有ワクチンの接種歴は記録で確認する（記憶はあてにならない。接種の記録がなければ、受けていないと考える）。
- 妊娠出産年齢の女性は、接種前に妊娠していないことを確認し、ワクチン接種後約2カ月間は妊娠しないように注意する。
- 1歳以上で2回の麻疹含有ワクチンの接種記録がある者、検査診断された麻疹の罹患歴がある者、既に発症予防に十分な麻疹抗体価を保有していることが明らかな者は受ける必要はない。
- 初回接種の場合は、接種後5～14日を中心として、約20%に発熱、約10%に発疹が見られることがあることに注意する。2回目接種の場合は、これらの症状出現頻度は低い。
- 接種不相当者（次頁）に該当する場合は、麻疹抗体価を確認し、免疫状態を把握しておく。その結果、麻疹抗体価が陰性あるいは低い抗体価であった場合は、人が多く集まるところや麻疹流行国に行くのを避け、家族や周りの者が必要回数である2回の予防接種を受けて、麻疹に対する免疫を獲得しておく。

【MRワクチンの接種不相当者*】

- 明らかな発熱を呈している者
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- 本剤の成分によってアナフィラキシー*を呈したことがあることが明らかな者
- 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する者及び免疫抑制をきたす治療を受けている者
- 妊娠していることが明らかな者
- 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

*アナフィラキシー：重症のアレルギー反応のことで、全身の発疹、かゆみまたは紅潮、口唇の腫れや浮腫、呼吸困難、喘鳴、血圧低下、意識障害、腹痛、嘔吐などを認める。

【可能な限り早めのMRワクチン接種が推奨される者】
（前頁に記載した注意点は必ず先に確認すること）

※赤字は定期接種対象者、黒字は定期接種対象者以外

【定期接種対象者】

- 第1期定期接種対象者（1歳児）
- 第2期定期接種対象者（小学校入学前1年間の幼児：今年度6歳になる者）

【定期接種対象者以外】

- 1か月以内に海外旅行・国内旅行を予定している者（可能な限り2週間以上前に接種を済ませる。旅行直前に接種する場合は、接種後5～14日の体調変化に注意が必要）
 - 医療関係者（救急隊員、事務職員等を含む）
 - 保育関係者
 - 教育関係者
 - 不特定多数の人と接触する職業に従事する人
 - 近隣で麻疹患者の発生が認められる、生後6-11か月児（緊急避難的な場合に限り）
 - 0歳児の家族
 - 麻疹抗体価陰性あるいは低抗体価の妊婦の家族
 - 麻疹抗体価陰性あるいは低抗体価の麻疹含有ワクチン接種不相当者の家族
 - 2歳以上第2期定期接種対象期間に至る前の幼児で、麻疹含有ワクチン未接種あるいは接種歴不明者
 - 小、中、高、大学、専門学校生等で、麻疹含有ワクチン未接種あるいは1回接種あるいは接種歴不明者
- 麻疹患者と接触あるいは空間を共有した感受性者*（生後6か月以上に限り）に対する緊急接種は、定期、定期外に関わらず、速やかに検討する。
- 生後6-11か月で接種しても、第1期、第2期の定期接種は忘れずに接種する。（0歳での接種は接種回数としてはカウントしない。）
- MRワクチンは、通常、1歳以上で2回接種する（接種記録は大切に保管する）。
- 1歳以上第2期定期接種対象期間に至る前の幼児で、麻疹含有ワクチン1回接種者については、麻疹患者との接触の程度、状況に応じて、緊急避難的な場合に限り検討する。

*感受性者：麻疹に対する免疫が不十分な者（麻疹未罹患あるいは罹患歴不明で、かつ、ワクチン未接種あるいは1回接種あるいは接種歴不明の者、あるいは、麻疹に対する抗体価が陰性あるいは低抗体価の者）